

多年草のニラは春先に株分けして若返りさせる



ニラは中国西部の原産。

北はモンゴル、南はマレーシア、ベトナムまで、アジアの地域で古くから栽培されています。強い香りのもと、硫化アリルはビタミンB₁の吸収率を高め、糖の分解を促進、血行を良くし体を温め、胃腸の働きを助けるので、風邪予防や回復にも効果的、抗酸化作用によるがんの抑制効果も期待できます。

強健な野菜で、一度植えれば毎年、年に数回も刈り取りできるので、狭い家庭菜園にもうってつけです。しかし、いくら強いといっても2〜3年取り続けると、株が密になり、幅広で厚みのある良質の葉が収穫でき

にくくなります。そうなる前に株分けし、更新を図ることが大切です。

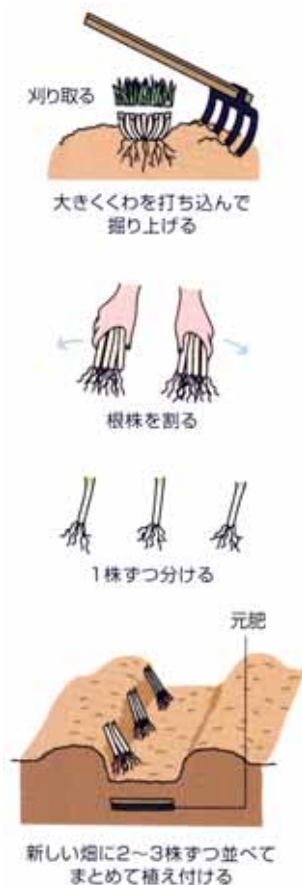
株分けの適期は、越冬後です。ニラの育ちを観察すると、冬に入ると葉が次第に枯れ、休眠状態に入りますが、この休眠が覚め、新しい小さな芽が働き始めた頃を見計らって株分け作業をするのです。この頃は根株に栄養がたっぷり蓄えられていて、断根や分割という荒療治をしても傷みが少なく、作業もしやすいからです。

株分け作業は、まず残っている枯れ葉を、地上5センチほどの高さできれいに刈り取ります。そして株の周りにくわかシャベルを大きく

打ち込み、根株を掘り起こします。株元には強い細根が密に張っているのを、全部を掘り取るわけにはいきませんが、中ほどで切断するようにしても一向に構いません。

掘り上げた株は土を落とし、指先に力を入れて大まかに割り、さらに小割りして図のように1株ずつに分けます。

新しい畑への植え付けは、条間80センチ、深さ10センチほどの植え溝を掘り、元肥として堆肥、油かす、化成肥料を施し、5〜6センチ土を戻してから図のように、2〜3株まとめて、20センチ間隔に植え付けます。植えるときには根株を束状にまとめず置き



きにするのが良いです。覆土は株の上部が少し出るぐらいにこども、やがて新葉が伸びだしてきたら、葉先を埋めないよう注意して、2回ほど覆土し、溝が全部

「JA版農業電子図書館を」つかってみよう！

当JAでは、病害虫や雑草、農薬など生産に関する情報が簡単に検索できる、タッチパネル式の情報端末「JA版農業電子図書館」を窓口相談機能の充実と、迅速な指導や最新情報の提供等、組合員サービスの向上を図るため、営農施設に設置しています。

皆様のご利用をお待ちしております。

*設置店舗：総合営農経済センター
片貝営農センター
千田園芸資材センター



埋まるようにしてください。こうすれば2〜3カ月後には見違えるほど良質の葉が成長してきます。収穫は葉長20センチほどに伸びたときから繰り返しおこないます。

●板木利隆